

一、障菩提門

善功摂化章がすんで、次には、障菩提門と、順菩提門の二章が説かれてある。

前の善功摂化章に於いては、自利を全うして利他を成じ、利他成ずる処、自然に自利の成就することが説かれてあつた。この自利利他一如の世界こそは、柔軟心であつた。柔軟心は、帰依によつて智慧を成就し、慈悲によつて利他を成就する心であつた。であるが故に、この柔軟心は、自然に能く菩提の障碍となるものを離れると共に、菩提門に順じて、仏道を成ずるのである。この離順の両義によつて障菩提門と、順菩提門とが説かれるのである。

この障菩提門の標章は、巻頭の列章には、「離菩提障」となつており、今は障菩提門と言われるのは、何故であるかと云えば、これは、能離に約した名と、所離に約した名との相違である。前は能離に約し、今は所離に約して立名されたものである。智慧、慈悲、方便の三門は、能離の法であるし、我心貪着自身心、無安衆生心、供養恭敬自身心の三心は、是れ所離の障そのものである。このどちらも説かれるのであるから、名目は違つても、其の義は互顯されるのである。本文に移る。

「障菩提門者菩薩如是。善知回向成就、即能遠離三種菩提門相違法」

障菩提門とは、前に説けるが如く、菩薩が巧方便回向（自利によつて利他を成じ、利他によつて自利を成ずる、自利利他一如の世界）を如実に知るならば、三種の菩提門相違の法を遠離することが出来る。この三種の相違の法を離れなければ、柔軟心を成就することは出来ない。柔軟心のない処には、巧方便回向はあり得ない。それ故に巧方便回向の心、即ち菩提心は、菩提門に相違する法を遠離するのである。ここに示された一節は、本章の大意である。依つて次に、三種の菩提門相違の法の遠離が説かれる。